

「シンポジウム」東アジアにおける国際経済の成立

報告要旨とコメント・ディスカッション

開催日時：1998年10月2日（金）13：20～16：30

開催場所：清光ホール

講演要旨

1. 斯波義信先生「中国海上貿易の構図：16-19世紀」

海洋中国は、すでに10世紀、11世紀にイスラム帝国の海上商業との相互作用の中で、12世紀には300トン以上の海洋航海のジャンク商船を作り出し、16世紀には毎年300隻を超えるジャンクが唐貨＝中国産の商品をアジアの各地に輸送していた。西洋人は16世紀以降にその貿易に参入し、19世紀後半に中国と日本は彼らによって開港を強制され、日本の商人もその国際貿易に参加したが、その中でもっとも熾烈な競争が展開されたのは、中国商人と日本商人の間であった。

2. 永積洋子先生「日本から見た東アジアにおける国際経済の成立」

16世紀に東アジアでは中国、朝鮮、日本の多民族船員を乗せた中国のジャンクが活発に貿易に従事して、マラッカは国際的なハブ港だった。それ以前の倭寇の時代に日本で建造された舟は、マラッカまでの遠洋航海にたえられず、それ以後ずっと遠洋貿易に従事していた日本人は、外国商人によって雇われるか買われた者達が多かった。そこへオランダ、ポルトガル、イギリス、スペイン等の商船が参入したのである。ヨーロッパ諸国の商船の貿易は、アジアと本国との間の貿易によるよりも、アジア域内の貿易に従事する方が利益が多かった。

3. 川勝平太「東アジアにおける国際貿易の成立：文明の海洋史観」

近代文明はアジアの海洋文明に対する西洋と日本のレスポンスから生まれた。前の講師の話にあったとおり、海洋中国はイスラム海洋帝国との交渉の刺激の中で海洋技術を発展させた。中国人が活躍したのは主として東アジアと東南アジアの海であった。ここで木綿、香料、陶磁器、砂糖など、西洋人も日本人も渴仰した物産が取引された。西洋人も日本人も金銀をもってこれをあがなった。日本人は鎖国によって金銀の流出を防ぎ、それらのものを国産化することに努め、18世紀にはすべて国産できるようになっていた。これは言わば日本の勤勉革命によるもので、労働集約的な近代的生産国家を達成した。イギリス人はそれを産出する地方を植民地とし、その物

産を輸入し、機械を使って労働節約的な近代的生産国家を実現した。

4. 講師およびフロアからの質問と意見交換

問：中国の海洋技術の衰退と海遷令と関係があるのか？

答：その命令は、あまり厳密に実施されなかったから、関係はなかったであろう。

問：科学の発展と近代文明の発展の関係はどのように考えるか

答：科学の発展は必ずしも直線的なものではない。西洋科学の発展と平行して世界の他の地域でもその発展は生じていたのであり、その総合が近代社会の化学的発展につながったと考えるのが妥当であろう。

問：西洋人の世界支配は、西洋人の武器開発に負うところ大ではなかったか。

答：西洋人はイスラム文明から火薬の知識とともに、世界を平和の家と戦争の家に分ける文化をも吸収した。中国の終身齊家治訓平天下の思想と正反対である。

(文責 原 剛)